

パンダのマスコットが
目印だよ



「僕の名前はニーハオ・シンシン（星星）。厳選した中成薬を扱う目印だよ。」

漢方を扱う「街の薬屋さん」は、誰でも気軽に行ける健康相談スポット。上手に活用するために、気になる漢方のあれこれを今年35周年を迎える「北海道中医薬研究会」にお聞きします。



お答えします

まつもと漢方堂 店主 松本 比菜さん

登録販売者、国際中医主治医師（中国政府発行資格）。ドラッグストアに17年間勤務。自身の不調が漢方薬によって改善したことを契機に本格的に中医学の道へ。2011年まつもと漢方堂開設。得意分野は皮膚や婦人科系の症状。個別の健康相談にあたるほか、中医学講座や薬膳講座も実施している

まつもと漢方堂 札幌市西区二十四軒2条4丁目6-23 ユニコビル2階
電話：011・215・7544 営業時間：10:00～18:00 定休日：月・日曜、祝日

抜け毛が気になる人の健康管理に使われる中成薬

- 腎精を補う
イスクラ参茸補血丸、星火亀鹿仙など
- 炎症の起こりにくい体に
五味消毒飲加減方、馬齒莧（スベリヒユ）など
- 頭皮に効き目を届きやすくする（血流改善）
イスクラ冠元顆粒など

「五臓六腑」の五臓の一つで、体のパワーや材料を管理して蓄えているところ。髪の毛も担当しています。腎の貯蓄力は加齢とともに減少。また、蓄えはストレスや過労によって激しく消耗してしまふ。「抜け毛が増えるのは、まさに腎の蓄えが減ってきた現れなんです」。

中成薬による手当てでは、過剰な免疫反応や炎症を速やかに鎮め、同時に腎の蓄えの消耗分を補う。不安や不眠の症状があれば、その手当ても行うという。

「円形脱毛症の場合、1カ月、半年ほどで変化が始める方が多いですね」と松本さん。続けて、「実は生命維持に欠かせない骨や脳なども腎の管轄とされています。抜け毛で腎の消耗を実感したら、人生の後半を健康やかに過ごすためにも、早めにケアするのがお勧めです」とほほ笑んだ。気になる人は、お近くの会員店に相談してみよう。

気になる抜け毛の症状に
中成薬（漢方薬）でアプローチ

炎症を鎮め「血」と「腎」の手当てで髪の毛の材料を補う

皮膚のトラブルはいろいろあるが、「抜け毛」に関する悩みはとりわけデリケートな部類に入るだろう。円形脱毛症などに人知れず悩む人も少なくない。札幌市西区で「まつもと漢方堂」を営む松本比菜さんの元にも、多くの相談者が訪れてくる。「円形脱毛症は自己免疫疾患の一つといわれています。過労やストレスが引き金になって免疫のバランスが崩れ、本来は外部から侵入するウイルスや細菌などを攻撃すべき血液中のリンパ

球が暴走して、自分の毛根を攻撃してしまう状態です。攻撃された部分に炎症が起きて、耐えられなくなった毛根が抜けてしまふんです」と松本さん。出産をきっかけに発症したり、アトピー性皮膚炎に伴って発症するケースもあり、症状が繰り返されやすいのも特徴だ。

中医学（中国の伝統医学）では、髪は血余（けつよ）と呼ばれている。全身に十分に「血」が行き渡った余りが髪になると考えられていて、抜け毛は「血」と「腎」の問題と捉える。「血は西洋医学の血液と似たようなものと考えていいでしょう。腎は



生薬や中成薬を種類豊富にそろえている。皮膚用の生薬配合で、潤いを補う入浴液などもあり、スキンケア用品も充実している

北海道中医薬研究会について

北海道中医薬研究会は、中医学の理論と臨床経験に基づいて、地域医療への貢献を目指す団体。道内各地に全42店舗の会員店があります。



札幌市内16店舗をはじめ、道内各地の会員店の詳細は、左のQRコードにアクセスすると見ることができます

<https://hokkaido-kanpo.com/>

北海道中医薬研究会

来店
プレゼント



お近くの会員店に健康相談のご予約をする時に「HOを見た」と伝えると、来店した際に「イスクラ板藍のど飴」と「中医学で健康長寿」の小冊子」をプレゼント!